

ノマディック・ルーフを港湾緑地へ



JIA 神奈川
若手建築家
+ 法人協力会
プロジェクトリーダー
小山将史

6月7日から16日までの10日間、横浜・象の鼻テラスで開催された象の鼻テラス開館10周年記念企画「フューチャー・スケープ・プロジェクト」に、JIA神奈川の若手建築家+法人協力会のメンバーで、ロフト付き可動式テント「ノマディック・ルーフ」を製作して出展しました。

ご存知の方も多いと思いますが、象の鼻テラスと象の鼻パークは横浜開港150周年記念事業として、横浜港発祥の地を、横浜の歴史と未来をつなぐ象徴的な空間、文化観光交流拠点として、小泉アトリエの設計で2009年6月に完成した休憩所と港湾緑地です。そして、このプロジェクトは、象の鼻テラスと横浜市が共催したもので、1年後、10年後、100年後を想像し、さらに居心地の良い、快適な場所にするアイデアを集め、みんなの夢の詰まった「未来の風景」として出現させるアートプロジェクトで、この機会に市民と一緒により良い公共空間の使い方を提案したいという趣旨に我々も賛同して参加しました。

JIA神奈川としても、公共空間の使い方への具体的な提案をする初めての試みということで、期待と不安が入り交じりながら開始したのを覚えています。

具体的には、抛り所のない港湾緑地にひとつの大きな屋根を設けて、日除け兼雨避けを作り、浜風を感じられる半屋外空間ができ上がりました。木軸とジョイント金物とワイヤーをバランス良く組み合わせることによって、通常のテントよりも強く、潮風の影響を受けにくい安定した構造です。今後もう少し改善も必要ですが、可動式で、折り畳みが可能な骨組みです。計算上は10m角まで可能ですが、今回は仮設建築物の要件の関係で、5.4m×5.4mの大きさにしました。大空間を生み出すため、屋根はテント膜で軽量化し、2枚の布を重ね合わせ



最終日のクロージングパーティーの様子

ることで風が抜ける心地良さを醸し出しました。

また、大きな特徴としては、木軸があり、通常のテントにはないロフトを設けることができます。これによって、上は寝室、下はリビングといった立体的な使い方もでき、特に夏場の仮設住宅等、災害時の活用も可能です。

予算ゼロからのスタートでしたが、JIA神奈川法人協力会や協賛企業から、また初の試みとしてクラウドファンディングからの支援もあり、何とか製作して展示することができました。

このイベント参加の主な目的は、第1に公共空間の使い方の提案、第2に法人協力会等との関係性の強化、第3に若手建築家の入会促進でした。梅雨で苦戦する日もありましたが、イベント期間には多くの来場者に恵まれ、また、法人協力会等との共同作業は一体感を生み、第一と第二の目的はかなり手応えを感じました。一方で、第三の目的はまだこれからといった感じで、今後の受け入れ態勢強化と広報次第なのではと思いました。

JIA神奈川に限らず、業界全体として、次の世代が魅力やメリットを感じられるようにしたいと思うとともに、魅力ある活動には積極的に汗をかきたいと思っています。



ノマディック・ルーフ外観



ノマディック・ルーフ内観



ノマディック・ルーフ夜景